



日刊 労働千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

Q3.3.9 No. 3753

大幅賃上げ獲得・格差攻撃粉碎！ 強制配転者の原職復帰実現を柱に

春季第2波斗争に決起しよう

春季第一波闘争(貨物二・一九スト)の切り拓いた地平を引き継ぎ、われわれは、①大幅賃上げ獲得(貨物への格差攻撃粉碎)、②強制配転者の原職復帰の実現(運転関係への道筋の確立)を中心軸に据えた、春季第二波闘争に猛然と進撃しなければならぬ！

九三春闘をめぐる状況は、「不況」を理由とした「ベア・ゼロ」攻撃と、大量指名解雇攻撃の激化の中で、労働者には戦後最低の無権利状態と賃金抑制攻撃が、表裏一体のものとしてかけられてきている。

JR貨物の経営責任と「分民」の矛盾転嫁を断じて許すな！！

一方、JRにおける今春闘最大の課題は、貨物への会社間格差攻撃を断固粉碎することにある。「分割・民営化」の翌年から貨物会社は、定昇・ベアに格差を導入し、その比率は年々拡大の一途を辿っている。「景気後退」と昨年からの連続して発生した台車枠折損事故―その対策としての台車交換費二百億円(全保有車両の約八〇%)を理由とした、労働者への賃金抑制攻撃は断じて許すべからざるものだ。貨物会社当局の経営責任と、「分割・民営化」の矛盾を、労働者に転嫁する、格差と合理化(八〇〇〇人体制)攻撃に対し、怒りの総反撃を叩きつけようではないか！

怒りの総反撃

自らの手で道筋を切り拓こう

そして今次第二波闘争で何を置いても獲得すべき課題は、強制配転者の原職復帰の実現である。

人活センター設置から始まった強制配転の軌跡は、すでに七年を経過し、その過程の中で八九年秋以降の、運転士差別・選別登用は、この三月末習志野運輸区での運転士要請(八名)によって四六名にも及ぶことになるのだ。

動労千葉の運転士・予科生を営業関係に「塩づけ」にし続ける一方で、運転士を「任用の基準」によって養成してきた対照は、組合差別と脱退勧奨、「聖域化」と「業務移管」へと直結し「JR体制」による連続した不当労働行為の複合に他ならない！

希望を踏み躪られ続け、人生そのものを破壊してきた、「空白」の大きさとその怒りを、全強制配転者はこの春季第二波闘争において全面開放しようではないか！

格差粉碎―原職復帰を軸に、第二波ストライキに決起しよう！

2月25日第14回サークル協總會開催

「ひとり1サークル」運動の展開を！

第一四回サークル協總會が、二月二五日動力車会館において開催され、今後一年間のサークル活動の概要が決定されました。

各支部サークル協議員参加の中、益川事務局長を議長に選出し、この一年間のサークル活動の総括と、今後一年間のサークル活動のあり方について忌憚のない意見をまじえ、「ひとり1サークル」運動の展開を目標に、娯楽連盟・文化連盟をどう活動させていくのか等を含め、「新しいサークル」を目指すための模案が真剣に討議されたのです。

その結果、全組合員が参加できるサークル活動の展開へ向け、「アンケート」調査の実施を決定しました。今までの枠を越え、なおかつしっかりと根を張ったサークル活動の実現のために、すべての組合員・家族の参加を押し進めること、その中から

ら交流・団結を勝ちとっていき、これがサークル協議會全体の総意です。本部サークル協役員・各支部サークル担当者は、その最先頭にたつて牽引していくことを確認し、総会は成功裡に閉会しました。

今年度の行動予定は次のとおりです。全組合員・家族の奮っての参加をお願いします。

- (一) 四月二一日(水) マラソン大会 (3km・5km)
- (二) 五月八日(土) ポウリング大会
- (三) 七月二一日(日) 地曳網大会
- (四) 九月三〇日(木) ゴルフ大会
- (五) 一一月三日(水) 団結運動会